

総合的な学習の時間 学習指導案

単元名：地域と関わる
～防災カレンダー作成を通して～

本単元で育成を目指す資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【自立・郷土愛】

指導者 呉市立川尻中学校 堂城 貴子

日時 令和4年11月8日(火)
場所 呉市立川尻中学校 1年A組教室
学年 1年A組(男子11名 女子18名 計29名)

単元について

○単元観

本単元は、本質的な問い「私たちは地域とどのように関わり、どう生きていくのか」を基に構想した。川尻という地域について学び、川尻で暮らす人々の思いや考えを知り、地域と関わって生きるために「自分たちは何ができるか」という視点から生徒自らの課題を設定する。そして、その課題を解決していくことを通して、本中学校区で設定した資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【自立・郷土愛】を育成することをねらいとしている。

本校区では、平成22年7月に豪雨災害が起き、中学生が災害復旧ボランティアを行った。そのことをきっかけに川尻中学校の生徒は代々地域のボランティア活動に盛んに参加してきた。そして、総合的な学習の時間の取組の中では第1学年が「水墨画カレンダー」を作成し、職場体験先や高齢者の方に配布することを行ってきた。しかし、3年前からコロナウィルス感染症対策で、多くのボランティア活動にも制限がかかり、それに伴って地域との関わりや高齢者との関わりは減少している。そこで今年度で13回目になる水墨画カレンダー配布の活動を基盤に、改めて「自分たちは何ができるか」について考えたことが「防災カレンダー」(絵手紙・防災標語・防災マップ)の作成につながった。この、地域に根ざした活動は、呉市が取り組む防災教育にもつながるものである。

本単元では、「防災カレンダー」の作成を通して、生徒自らが地域と関わり、実態に触れ、「自分たちは地域とどのように関わり、どう生きていくか」について考える。その中で、生徒は、身近な存在である地域で働く方や高齢者、民生委員の方々と関わることで地域の支えにつながることに気づき、今後自ら積極的に地域で働く方や高齢者の方に関わっていこうという思いをもつことになると期待している。そして地域の一員として、例えば災害発生時の避難をともにするなど、生徒一人一人が地域との関わりや生き方について考えをもって行動することができるように展開する。このような学びの姿は、指導者が設定した本質的な問いを具現化するものであり、本中学校区で設定した資質・能力の育成につながると考える。

○生徒観

本学年の生徒は、素直で温かく柔軟な感性をもっている。また自治会や民生委員、児童委員、花・図書ボランティアなど、地域の方々と関わり温かく見守られながら生活している。よって、地域の現状や課題を把握し、自分たちにできることを考える活動では、地域の方に親しみをもち、地域の方を思いやる発言も聞かれ、前向きに取り組む姿勢が見られる。

これまでの学習では、課題解決に向け、進んで資料や情報を集めたり、班で話し合い、自分の考えを持って交流したりすることで、考えを深めることができつつあるが、取り組む姿勢には個人差が見られる。

また、授業の中で出てきた疑問や課題に対して「さらに調べたい」「もっと考えてみたい」という次への学習へつなげていくことに対しては課題があることから、調べたことを基にしてさらに自ら学びを深めていくための手立てが必要であると考えている。

○指導観

指導に当たっては、次の2点に留意する。

【探究的な学びにつながる地域の人・もの・ことの活用】

探究的な活動を支える土台として、課題意識をもたせることや、探究的な見方・考え方を働かせることを重視し、地域の人・もの・ことを活用していく。

単元の導入では、民生委員・主任児童委員の方より、呉市と川尻町でおこった過去の災害、その際の川尻中学校のボランティア活動の様子、水墨画カレンダーを作成し地域で働く方や高齢者に配布するようになったきっかけや、その活動が今年で13回目になること、地域で働く方や高齢者が中学生に期待することなどについて直接話を聞く場を設定し、地域の人々の思い等を理解させ「防災カレンダー」を作成することにつなげる。

「防災カレンダー」作成においては、民生委員・主任児童委員の方の協力で、川尻町在住の日本画家をお招きし、カレンダーを目にした方が温かい気持ちになるような絵手紙の描き方を学ぶことで、地域の人材を知り、地域の方とのつながりをもたせる。

また「防災カレンダー」の配布を通して、川尻という地域の実態を知り、どの地域に企業があり、高齢者がどこに住んでいるのかを把握する。民生委員との打ち合わせから民生委員の思いやそこで暮らす高齢者の思いなど、さらに詳しく地域の実態を知った上で、実際に災害が起きたときに一人でも多くの命を助けるための行動を取るために、地域社会の一員として、「自分たちは何ができるか」という視点に基づき考えさせる。そして自分たちから地域で働く方や高齢者の方を活気付けるにはどうしたらよいかということをも面的に考え、自分たちの行動や生き方につなげることができるようにする。(来年度、修学旅行で訪れるSDGsの取組を行っている上勝での学びにもつなげる。)

【生徒が自ら問いを見出すためのしかけ】

単元を通して、本質的な問い「私たちは地域とどのように関わり、どう生きていくのか」や「自己の生き方」に係って、生徒が自ら問いを見出すことができるよう、「自分たちは何ができるか」を問いかけながら、班での活動などを取り入れて単元構成を工夫する。

単元の導入で、民生委員の方の話を聞き、高齢者の方たちが、中学生に期待することは何か、どのような関わりを望んでいるのかを考えさせる。

第2次では、防災カレンダーを作成する活動に取り組みさせる。地域社会の一員として、一人でも多くの命を助けるために「自分たちは何ができるか」という視点に基づき課題を発見させ、全学年の生徒を巻き込んだ「防災標語」作りや「防災マップ」作りなどの活動につなげる。実際に防災マップを使用する場面を想定し考えることで、生徒自ら地域の方々の立場に立って活動できるようにする。

第3次では、実際にカレンダー配布をする際にどのようなコミュニケーションを取るのかを考えるために、事前にシミュレーションを生徒同士で行い、相手意識をもち、生徒自ら積極的に礼儀正しい接し方や挨拶ができるようにする。また、防災カレンダーを配布する際には地域で働く方や高齢者の思いを受け止め、中学生に期待することは何かを考え行動できるようにする。

単元を通して、生まれ育った川尻の地域を調べる活動や地域で働く方や高齢者の思いを知る活動が、「私たちは地域とどのように関わり、どう生きていくのか。」といった一人一人の課題意識をもつことにもつなげると考える。また川尻に暮らす一員として、自分たちにできる地域との関わりを考え防災カレンダーを配布することを通して、地域を知り、今後さらに主体的に地域で働く方や高齢者と関わっていく生徒の姿を目指す。

単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

地域で働く方、高齢者との関わりを通して、川尻という地域の実態を知り、どのような思いで暮らし、中学生に期待することは何かを考えるとともに、防災カレンダーの配布という実践を通して「地域とどのように関わり、どう生きていくのか」考えたことを今後の生活に生かすことができる。

【評価規準】

知識・技能	思考力・判断力・表現力	自立・郷土愛
① 川尻町の地域の地形や人口など特徴や実態を理解している。 ② 民生委員の話や調べ学習によって、目的や対象に応じた活動を実施している。 ③ 川尻と自分たちとのつながりを理解することは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	① 地域で働く方や高齢者と関わっていくために何が必要かなど、課題を明らかにしている。 ② 地域と関わって生きるために必要な情報について、多様な方法で収集している。 ③ 課題の解決に向けて収集した情報を整理し、解決に向けて考えている。 ④ 相手や目的に応じて、ICT機器を活用するなど、分かりやすく表現している。	① 課題解決のための方法を考えようとしている。 ② 地域とのかかわりの中で、異なる意見や他者の考えを受け入れながら、自分ができることを考えようとしている。

指導と評価の計画

(全 20 時間) 本時は 16/20

〈本質的な問い〉私たちは地域とどのように関わり、どう生きていくのか			
次 (時)	学習内容 【他教科等との関連】	評 価	
		評価規準 (評価方法)	資質・能力
一 (2)	<p>課題の設定</p> <p>○ 川尻という地域について知る。</p>	<p>・川尻の特徴や地域の暮らしはどうなっているのかを理解している。(行動観察, 発言)</p>	知識・技能①
	<p>情報収集</p> <p>○ 川尻の災害の歴史について地域の方に話を聞き情報を集める。(1時間)</p>		
二 (14)	<p>整理分析</p> <p>○ 集めた情報を整理・分析し、地域の課題について考える。(1時間)</p>	<p>・川尻の災害の歴史や、カレンダー配布のねらいと取組を理解し、課題意識をもっている。(行動観察, ワークシート, 発言)</p>	思考力・判断力・表現力①
	<p>新たな課題の設定</p> <p>○ 川尻の地域の特徴について知り、新たな課題を設定する。(1時間)</p>	<p>・課題解決のための方法を考えようとしている。(ワークシート, 発言)</p>	自立・郷土愛①
二 (14)	<p>新たな課題の設定</p> <p>○ 川尻の地域の特徴について知り、新たな課題を設定する。(1時間)</p>	<p>・新たな課題を設定し、課題解決のための方法を考え、学習の計画を立てている。(行動観察, 発言)</p>	思考力・判断力・表現力①
	<p>情報収集</p> <p>○ 全校生徒に呼びかけ、自らも作成した防災標語を集める。(1時間)</p>	<p>・「防災カレンダー」作成の目的や、学んだことを基に、自分たちの思いを分かりやすく表現している。(行動観察・作品)</p>	思考力・判断力・表現力④
	<p>○ 絵手紙の描き方を学び、題材を集めて絵手紙を描く。(4時間)</p> <p>○ 防災マップに必要な情報(避難場所・危険箇所・AED設置場所等)を収集する。(3時間)</p>	<p>・地域と関わりて生きるために必要な情報について、多様な方法で収集している。(行動観察, ワークシート, 発言)</p> <p>・調べ学習によって、目的に応じた調査活動をしている。(行動観察, ワークシート, 発言)</p>	<p>思考力・判断力・表現力②</p> <p>知識・技能②</p>

【単元を貫く課題】地域と関わっていくために、自分たちは何ができるだろうか



	<p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作成した防災標語と絵手紙を整理し、内容を吟味した上でふさわしいものを選択する。(1時間) ○ 防災マップに必要な情報を整理し、選んだ情報が目的や相手に合った情報であるか分析し、防災マップを完成させる。(4時間) <p>【本時】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に必要な情報を収集し、整理している。 (ワークシート, 発言) 	<p>思考力・判断力・表現力③</p>
<p>三 (4)</p>	<p>新たな課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「防災カレンダー」配布に向けて、新たな課題を設定する。 <p>情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 民生委員や地域の方との交流をシュミレーションし、必要な礼儀作法について調査する。 (1時間) <p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班で考えた配布の方法ができるか検討し、実際に配布する。(2時間) <p>まとめ・表現・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域と関わっていくにはどうしたらよいか」をまとめ、地域との関わり方について振り返る。(1時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな課題を設定し、課題解決のための方法を考え、学習の計画を立てている。(行動観察, 発言) ・地域の方々との交流に必要な礼儀作法について情報収集している。 (行動観察, ワークシート, 発言) ・地域の方に配布する際に、中学生から関わっていけるようにするにはどうしたらよいか、自分ができることを考えようとしている。 (ワークシート, 発言) ・川尻と自分たちとのつながりを理解することは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 (行動観察, ワークシート, 発言) ・相手や目的に応じて、ICT機器を活用し、分かりやすく表現することができる。 (行動観察, 作品, 発言) 	<p>思考力・判断力・表現力①</p> <p>思考力・判断力・表現力②</p> <p>自立・郷土愛②</p> <p>知識・技能③</p> <p>思考力・判断力・表現力④</p>

本時の展開

本時の学習

(1) 本時の目標

防災マップに必要な情報を整理し、選んだ情報が目的や相手に合った情報であるか分析することができる。

(2) 本時の評価規準

・課題の解決に向けて必要な情報を収集し、整理している。【思考力・判断力・表現力③】

(3) 学習の展開 (第16時／全20時間)

分	学習活動	指導上の留意点	資質・能力の評価 【観点】 (評価方法)
4 1	1 防災カレンダー作成の進捗状況と、配布することのねらいを改めて確認する。 2 本時の学習課題を知る。 【課題発見】	<ul style="list-style-type: none"> 「防災カレンダー」作成に至る流れを改めて確認し、「自分たちは何ができるか」について考えていくことを意識させる。 昨年度の「水墨画カレンダー」を提示し、最後のページに何を載せるか、どのように載せるかをイメージさせる。 	防災マップに必要な情報を整理し、選んだ情報が目的や相手に合った情報であるか分析し整理している。 【思考力・判断力・表現力③】 (行動観察, ワークシート, 発言)
防災カレンダーの最後のページをみんなで作成しよう！			
5	3 最後のページにどのような形で収集した情報を掲示するか考える。	<ul style="list-style-type: none"> 考えを発表する際は、理由を明確にさせる。意見が多数出たらどちらがよいか理由を話し合わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (生徒の反応例) ・たくさん掲載箇所があるので一覧表をつくる。 ・場所がすぐわかるように地図に記入する。 </div>	
10	4 防災マップ作りに必要な情報を考え、実際に地図に掲示していく。 【自力解決】→【集団解決】	<ul style="list-style-type: none"> 予め川尻の地図を用意しておくが、生徒からの主体的な考えを導き出すようにする。 まず個人で思考し、班で話し合っって考えを深めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (生徒の反応例) ・避難場所 ・AED設置場所 ・危険な場所 ・自宅の場所 </div>	
25	5 情報を掲示した防災マップは、本当に役に立つものなのか考える。 【自力解決】→【集団解決】	<ul style="list-style-type: none"> 相手の状況をイメージすることが難しければ、ロールプレイングを行ったり、考えを深める発問をしたりすることで相手の立場に立って、何に困るのか、何が必要かを考えさせる。 ただ防災カレンダーを渡すだけではなく、どのように働きかけるとより効果があるかも考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (発問例) ・AEDが必要な時、本当に使えるのか？ ・一人一人に配布するのに、それぞれの自宅にどのように印をつけるのか？ ・地図を見た時まずみんなが確認するのは何？ </div>	
5	6 本時を振り返るとともに、今後の学習の見通しをもつ。 【まとめ・振り返り】	<ul style="list-style-type: none"> 防災カレンダー完成のために今後必要になる情報をあげ、見通しをもたせる。 	

